

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2021年5月13日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【FタンクエリアH4タンクのフランジ接合部からの水の滴下について】 当社社員がFタンクエリアH4タンク本体のフランジ接合部から、3秒に1滴程度の水の滴下を確認。滴下した水は、堰内に留まっており、滴下範囲は約1.3m×約0.15m×深さ約1mmであること、5.6号機滞留水であることを確認。 滴下範囲の拡大防止のため、滴下箇所に水受けを設置し、滴下水を集水中。 今後、原因の調査、および応急対策として止水材にて漏えい箇所を補修予定。</p>	GⅢ	5月7日
2	<p>【FタンクエリアH6タンクのフランジ接合部からの水の滴下について】 協力企業作業員がFタンクエリアのタンクパトロールをしていたところ、H6タンク本体のフランジ接合部から、20秒に1滴程度の水の滴下を確認。 滴下した水は、堰内に留まっており、滴下範囲は約0.2m×約0.2m×深さ約1mmであること、5.6号機滞留水であることを確認。 滴下範囲の拡大防止のため、滴下箇所に水受けを設置し、滴下水を集水中。 今後、原因の調査、および応急対策として止水材にて漏えい箇所を補修予定。</p>	GⅢ	5月9日
3	<p>【5号機補機冷却用海水ポンプ(C)の電動機油冷却器の冷却水供給元弁の開固着について】 当直員が、補機冷却用海水ポンプ(C)点検に伴い電動機油冷却器の安全隔離を行うため、冷却水供給元弁の全閉操作を行なった際、開状態で固着しており、弁操作が困難なことを確認。 点検に伴う安全隔離は、冷却水供給元弁の下流側にある電動機油冷却器の冷却水入口弁を全閉操作することで可能なため、点検には支障なし。 今後、当該弁を点検し、対応を検討。</p>	GⅢ	5月10日
4	<p>【増設多核種除去設備 高性能容器排出装置(9A)の圧縮空気減圧弁からの空気漏えいについて】 協力企業作業員が増設多核種除去設備の高性能容器へのスラリー排出および高性能容器交換作業時に、高性能容器排出装置(9A)の圧縮空気減圧弁より空気の漏えいを確認。 圧縮空気減圧弁からの空気の漏えいは微量であり、作業への影響はなし。 今後、当該弁を交換予定。</p>	GⅢ	5月11日
5	<p>【増設多核種除去設備(A)の吸着塔(1A)隔離運転時に吸着塔(1A)に圧力がかかっていることについて】 当社社員が増設多核種除去設備(A)の吸着塔(1A)を隔離し、他の吸着塔で浄化運転をした際、隔離した吸着塔(1A)には本来圧力がかからないところ、運転による通水時同様に圧力がかかっていることを確認。 吸着塔(1A)に繋がる入口弁、出口弁、他弁を開操作し、圧力を低下させた後、開操作した弁を全閉とし、再度、吸着塔(1A)を隔離した上で、他の吸着塔で浄化運転を行なったが、状況が変わらなかったため、当該入口弁、出口弁、他弁のいずれかにシート漏えいがあるものと判断。 吸着塔(1A)の圧力上昇は、通常運転の通水圧力と同等値であり、当該設備の運転には影響なし。 今後、吸着塔(1A)に繋がる入口弁、出口弁、他弁を点検、修理予定。</p>	GⅢ	5月11日
6	<p>【既設多核種除去設備(C)のクロスフローフィルター出口圧力検出器用取付配管の溶接部におけるピンホールが疑われる跡の確認について】 協力企業作業員が既設多核種除去設備(C)点検において、クロスフローフィルター(2C)出口側配管と圧力検出器取付配管の溶接部にピンホールが疑われる跡があることを確認。 当該配管は、点検により水抜き状態であり、水の漏えいはなし。 今後、応急対策として、止水材にて補修予定。また、当該配管の交換を計画。</p>	GⅢ	5月11日